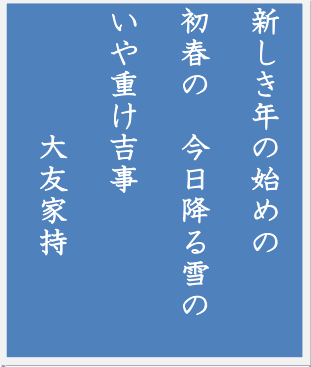




新



新しき年の始めの
初春の 今日降る雪の
いや重け吉事
大友家持

■2018：新しい年を迎えた。恒例行事の初詣は大変なにぎわいのようだ。年神様を迎え、お年玉をもらい大なり小なり新年の抱負を持ったことだろう。その気持ち一年間大切にしてほしい。■昨年末、1枚の写真が配られた。写真の裏に「戦争の結果」と記されている。配布を指示したのは、カトリック総本山、ローマ法王である。法王がそのようなことをするのは極めて珍しいとの事。今の時勢を危惧されてのことなのか。その写真は、長崎原爆投下後に撮影された「焼き場に立つ少年」と名がついている。少年の背中にいるのは、まだ生まれて間もない幼い弟だった。眠っているかのようなが、その場所は火葬場の順番を待っているところ。少年の悲しみは、かみしめた血のにじんだ唇にすべてが表れている。■世界中で新年のあいさつが交わされている。国のトップも国民に向けたメッセージを送っている。「自分の机の上には、核爆弾のスイッチがある。」「いや俺のほうがもっと凄いやつだ」と言い放す。日本昔話（因幡の白ウサギ）やイソップ童話（北風と太陽）にも出てきそうな話だが、もっと始末が悪い。はだしの少年の悔しさは、未だその無念が晴れることはないのか。いつの時代もあらたしき年に幸せの願いを込めてきた。「〇〇、ますように」は、健康と世界平和が一番と感じる一年のスタートである。2018.1.5